

## 事例研究

### 4

## トイレで排泄をしよう ～オムツ内排便ゼロを目指して～

法人名・事業所名

社会福祉法人 幡豆福祉会  
特別養護老人ホーム しはとの郷

職種／発表者

介護員／太田祥子

### ■ 取り組んだ課題

要介護高齢者の自立支援介護に取り組み始めて12年目。オムツ内排便ゼロを目指して、日頃どのように取り組み、どのような成果があるか。そして今後課題となるのは何かを取り上げた。

### ■ 具体的な取り組み

【対象者】 特養入所者80名+ショートステイ長期利用者5～7名

【取り組み方法】 ①水分1500cc/日以上摂取 ②入所後下剤の中止 ③歩行再獲得、歩行量の増加  
④トイレでの排泄 ⑤常食化 ⑥食物繊維の補てん、乳酸飲料

【取り組み評価】 各入所者の担当職員（常勤介護員1人に対して入所者2～4名）により、毎月評価実施

①オムツ内排便率を算出 ②オムツ内排便率50%以上の方に対する取り組み方法見直し

### ■ 活動の成果と評価

【オムツ内排便率推移】

H25年4月48%	H26年3月26%	H27年3月0%	H28年3月%
H29年3月0%	H30年3月6%	H31年3月2%	R2年3月3%
R3年3月0%	R4年3月1.3%	R5年3月0.3%	R6年3月0.0%

【下剤使用率】

H25年4月50%	H26年3月31%	H27年3月28%	H28年3月17%
H29年3月6%	H30年3月4%	H31年3月0%	R2年3月0%
R3年3月0%	R4年3月0%	R5年3月11%	R6年3月9.5%


### ■ 今後の課題

- ・頓服下剤使用ゼロ
- ・何が原因で便秘になっているかの原因追及力の向上
- ・歩行が出来ない方への運動

### ■ 参考資料など

介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践 竹内孝仁著

介護の生理学-自立支援介護の実践のために知っておきたい理論と技術 竹内孝仁監修 小平めぐみ、井上善行、野村晴美、藤尾祐子、古川和稔著



トイレで排泄をしよう

ーオムツ内排便ゼロを目指してー

令和8年2月17日  
社会福祉法人 幡豆福祉会  
特別養護老人ホーム しはとの郷  
発表者 介護員 太田祥子

## 施設概要



所在地：〒444-0704 愛知県西尾市鳥羽町迎49-2

開設：平成7年10月1日

特養定員：80名 短期入所定員：20名

従来型施設



## 高齢者のパワースポットを目指して

H25年4月から竹内理論に沿った

**自立支援介護**の取り組みを行っている

H27年3月には「日中おむつ使用0%」を達成

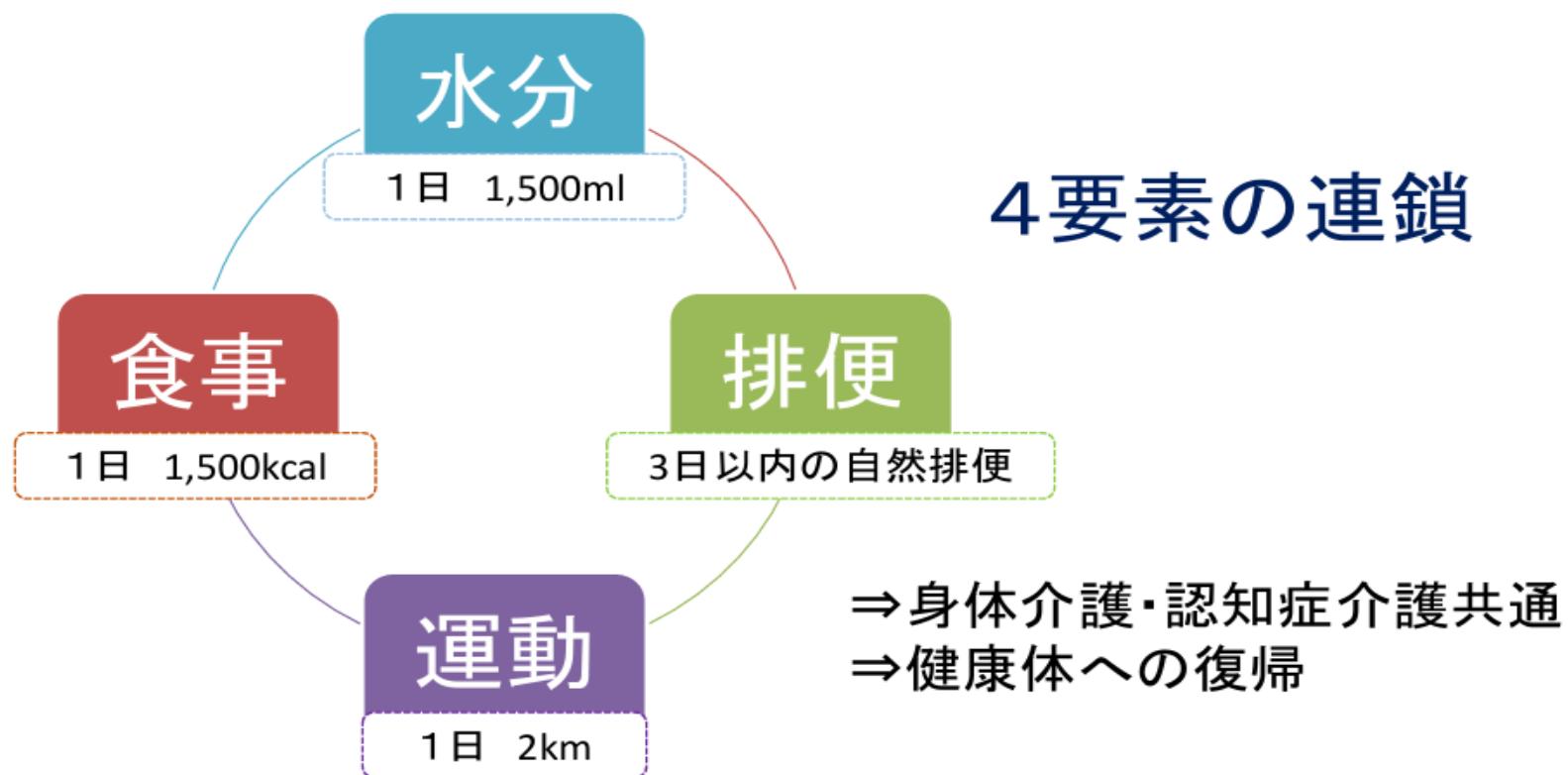
元気に自分らしく過ごせるには

何でも**自分でできる自立した状態**が一番である

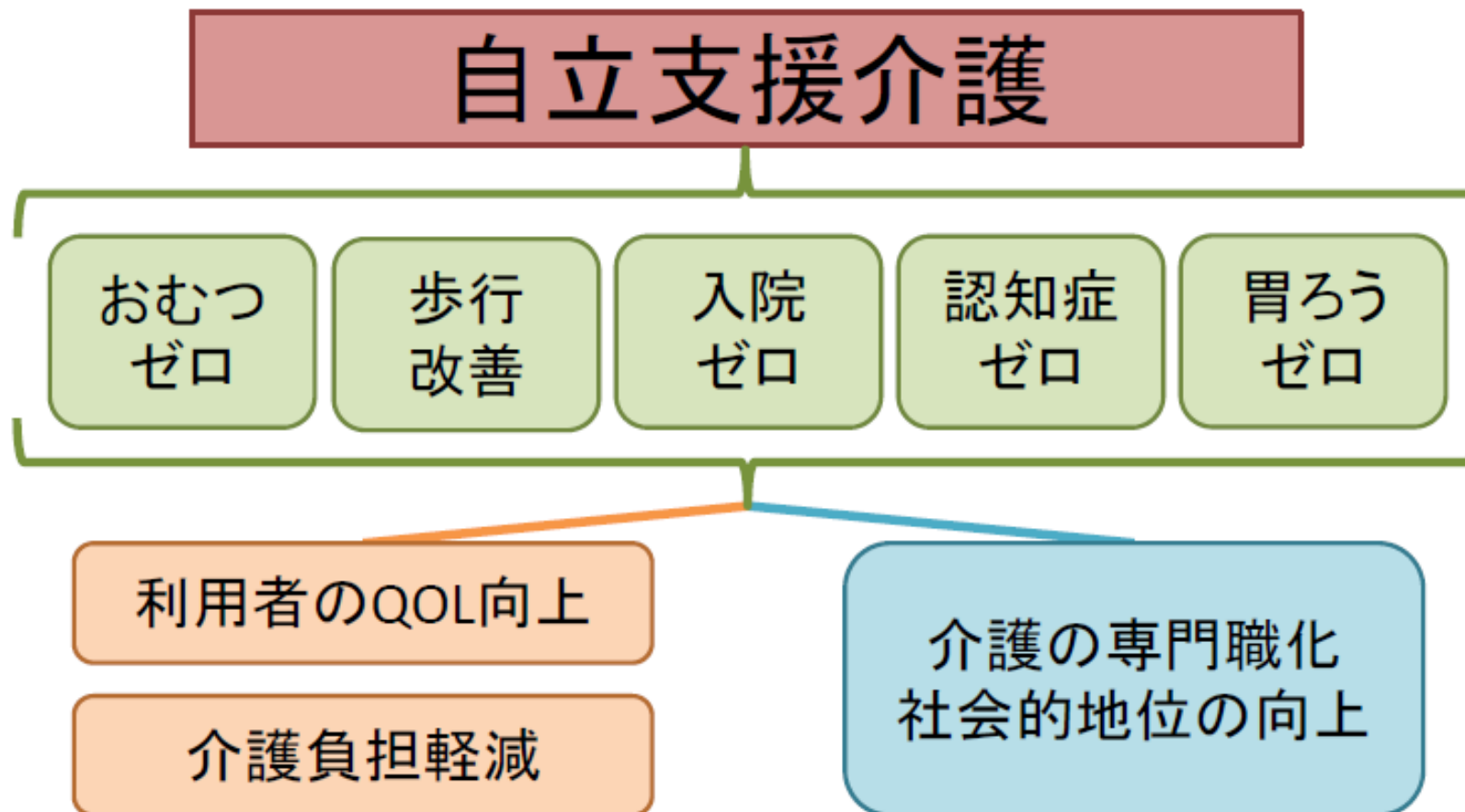
しはとの郷を利用すれば元気になる

そんなパワースポットのような場所を目指しています





基本ケアはその人の健康や活動性を支える項目。  
高齢者ケアとは、利用者に健康的な生活を送ってもらうための働きかけである。



日中、便をおむつで  
とらない

おむつゼロ

自分らしく生きるために  
自尊心を取り戻す

# おむつゼロとは



## 排便場所

### ① トイレ

排便5回のうち4回以上トイレに排便している場合に選択  
(便失禁があっても1回まで) ※下痢の場合は除く

### ② Pトイレ

排便5回のうち4回以上Pトイレに排便している場合に選択  
(便失禁があっても1回まで) ※下痢の場合は除く

※トイレ・Pトイレを併用し、排便5回のうち4回以上の場合は、  
使用頻度の高いものを選択

### ③ ベッド上

排便5回のうち2回以上ベッド上で排便している場合に選択

### ④ 上記(トイレ・Pトイレ・ベッド上)以外の場所の場合に選択

## 排使用具

### ① 布パンツ

布パンツを履いていて、パンツ内に便をしていない場合に選択

### ② おむつ

1) 布おむつ、紙のフラットタイプ、パンツタイプ、テープタイプ、  
パッド等、形状は問わず、便を処理するための排泄用具を  
使用している場合に選択

※便のためのパッドサイズ、吸収量は問わない

2) トイレやPトイレに誘導して排便しているケースで、  
排便5回のうち2回以上便失禁がある場合は、「おむつ使用」  
※下痢の場合は除く

### ③ その他

差し込み便器、ストーマ等の場合に選択

※ストーマの「排便場所」は該当の場所を選択

### ④ 使用なし

排尿用具としてのみ、おむつ・パッド・リハパン等を使用して  
いるが、排便はトイレまたはPトイレで行っている場合に選択

# 便の性状



## ブリストルスケールによる便の性状分類



引用: (株)タイヨーラボ 排便チェックシート



## 便秘を治す7つのケア

- ① 水分 1日1,500mlもしくはそれ以上  
起床時の冷水、冷乳が効果的
- ② 歩行または歩行練習、もしくは体操なども
- ③ 常食
- ④ 食物せんいの補てんや乳酸飲料
- ⑤ 規則的生活 特に睡眠と覚醒リズム
- ⑥ 定時排便
- ⑦ 座位排便 おむつ使用者



目的は、**生理的**で**規則的**なトイレでの排便



## おむつゼロの取り組み

### 【対象者】

特養入所者80名＋ショート長期利用者5～7名

### 【取り組み方法】

- ①入所後下剤の中止
- ②水分ケア
- ③歩行の再獲得、歩行量の増加
- ④トイレでの排泄
- ⑤常食化 義歯作成、義歯調整
- ⑥食物繊維の補てん、乳酸飲料

### 【取り組み評価方法】

各入所者の担当職員（常勤介護員1人に対して入所者2～4名）により、毎月評価実施

- ①オムツ内排便率を算出
- ②オムツ内排便率50%以上の方に対する原因追究と取り組み方法の見直し

## ②水分ケア



水分記入表

利用者名	朝食前	ヤクルト	朝食	10時	昼食	15時	夕食	+α	±	合計	歩行距離(m)
*** ○○○様	300	65	300	300	200	200	200		0	1565	* 80
*** ○○○様	300	65	400	400	300	200	200		0	1865	* free1000
*** ○○○様	300	65	400	300	300	200	200		0	1765	
*** ○○○様	400	65	400	300	300	200	200		0	1865	300
*** ○○○様	300	65	300	300	300	200	200		0	1665	* free70

水分準備表

	起床時	備考		朝	備考		10時	備考		昼	備考		15時
○○○様	ド300		○○○様	茶400		○○○様	やかん300牛乳×		○○○様	茶300		○○○様	茶200
○○○様	ド300		○○○様	茶400		○○○様	やかん300		○○○様	茶300		○○○様	茶200
○○○様	ド400		○○○様	茶400		○○○様	やかん300		○○○様	茶300		○○○様	茶200
○○○様	ド300		○○○様	ド400		○○○様	やかん300牛乳×		○○○様	ド400		○○○様	コーヒー200
○○○様	冷ド300		○○○様	冷ド300		○○○様	やかん300		○○○様	ド200		○○○様	ド200

## ②水分ケア



### ③ 歩行の再獲得



5秒つかまり立ちテスト



歩行器歩行へ



# 排泄表

便	氏名	特記事項	1時	6時	8時	10時	11時	13時	15時	19時	23時
	〇〇〇〇 様		ム ナP /		ア /	ア /		ア /	ア /	ム ナP /	
	〇〇〇〇 様		(マS)		ピ /			ピ /		マS ピ /	
	〇〇〇〇 様	入浴日も8時 ポーター				ア /	ア /	ア /		(マS) ア /	ナ (マS) p
	〇〇〇〇 様		(マS) ナP		ミ /			ミ /		マ ム /	
					15m 50m	50m		40m 15m	早め	50m 50m	15m 50m

⑤常食化 義齒作成、義齒調整



## ⑥ 食物繊維の補てん、乳酸飲料



# 取り組み評価方法



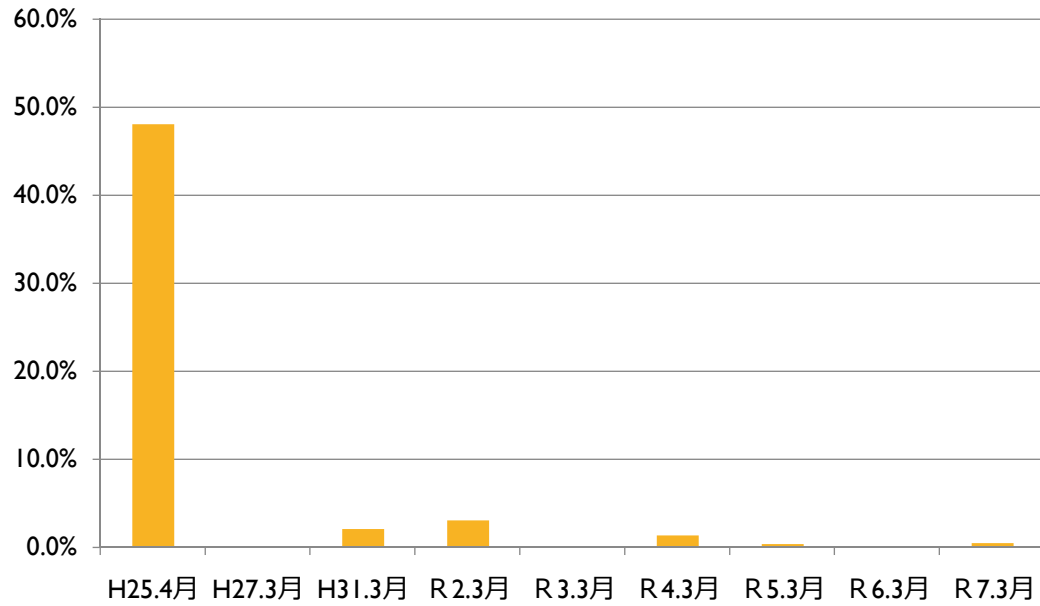
担当	氏名		トイレ 排便率	下剤	主食	副食	水分	義歯	歩行	椅子	対策（取り組み案）
T	O.K	様	100	0	2	2	1551	2	0	○	前月より排便率10%低下の方と排便率49%以下の方、また下剤使用率50%以上の方は必ず取り組み内容記入
S	Y.T	様	100	20	1	1	1559	2	0	○	(4月取り組み成果)
T	K.T	様	100	0	1	2	1573	2	200	○	I.T様 KOT-3日で13時オムツ内にスケール5中量の排便 (+) ⇒KOT-3日で昼食後ポーター座る対応へ変更 26%⇒60%
K	M.T	様	100	0	1	1	1485	2	10	○	I.F様 退院後によりポーター座っていなかった為、バット内で排便 (+) ⇒状態問題ないので、KOT-3日でポーター座る対応に変更 0%⇒33%
S	T.T	様	100	0	1	2	1526	1	0		E.Y様 3/15.16下痢嘔吐の為バット内排便 (+) ⇒早め誘導と、しっかり分析する為に1か月様子観察 69%⇒80%
F	I.M	様	100	0	2	2	1200	1	0		K.K様 KOT-6日で13時前に出てしまうこと (+) ⇒KOT-6日8時に確認し、触ればポーターに座る対応へ変更 71%⇒85%
F	K.R	様	100	0	1	2	1520	2	0	○	S.S様 状態不良の為、バット内に排便 (+) ⇒排便訴え時のみ、2人平気でポーター座る対応へ変更 30%⇒60%
Y	N.S	様	100	0	1	1	1482	4	128	○	S.T様 KOT-2~5日でバット内排便 (+) ⇒4月よりDCへ変更した為 KOT-5日でポーター座る対応へ変更、毎日13時肛門確認 50%⇒71%
S	O.A	様	100	100	1	1	1293	1	1	○	S.N様 3/1.2下痢嘔吐の為、バット内で排便 (+) ⇒体調不良によるものだと思うので、対応継続 80%⇒100%
S	N.H	様	100	0	1	1	1575	1	0	○	T.H様 3月前半にKOT-11日で1回、KOT-1~7日の間で排便 (+) ⇒KOT-5日で長めに座り、毎日19時確認し付着時ポーター 63%⇒90%
S	Y.C	様	66	0	2	2	1200	5	0		(下剤使用率50%以上の方取り組み成果)
S	S.A	様	66	0	2	2	1571	1	0		O.K様 3月前半は水分・食事摂取不良にてカウントが上がり、テレミン使用率↑⇒最近摂取良好の為、様子観察 66%⇒0%
S	S.S	様	60	0	2	2	980	1	0	○	
F	I.T	様	60	0	2	2	952	1	0		(5月取り組み)
Y	F.K	様	56	0	2	2	1300	1	0		I.F様 前半はポーター座るも緩い便続き、オムツ内で出てしまう事あった。後半-3日でポーター座る対応へ変更しポーター内排便 (+) ⇒現在の対応でしばらく様子観察
O	M.T	様	40	0	2	2	1500	3	0		
O	I.F	様	33	0	2	2	1264	1	0		K.S様 排便緩い⇒トイレ時「排便か確認」し、早めにトイレ誘導行う

# 取り組み成果



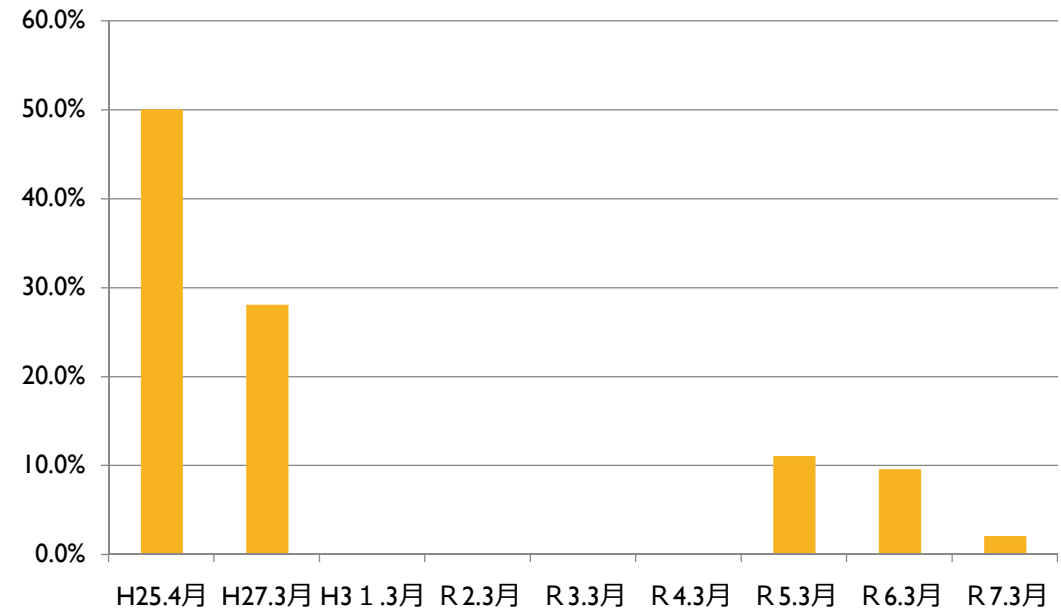
## オムツ内排便率

■ オムツ内排便率 (%)



## 下剤使用率

■ 下剤使用率 (%)



	H25.4月	H27.3月	H31.3月	R2.3月	R3.3月	R4.3月	R5.3月	R6.3月	R7.3月
オムツ内排便率 (%)	48.0%	0%	2.0%	3.0%	0.0%	1.3%	0.3%	0.0%	0.4%

	H25.4月	H27.3月	H3 1.3月	R2.3月	R3.3月	R4.3月	R5.3月	R6.3月	R7.3月
下剤使用率 (%)	50.0%	28%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.0%	9.5%	2.0%

## 今後の課題



1. 頓服下剤使用ゼロ
2. 何が原因で便秘になっているかの原因追及力の向上
3. 歩行ができない方への運動



笑顔いっぱい  
魅力いっぱい  
しはとで元気

ご清聴ありがとうございました